

御言葉の学びに入りましょう。ピリピ3章。今日も10-11節です。

使徒パウロが聖霊によってピリピの教会に書いていますが、かなり衝撃的です。

ピリピ3:10-11

**10 私は、キリストとその復活の力を知り、キリストの苦難にもあずかって、キリストの死と同じ状態になり、
11 何とかして死者の中からの復活に達したいのです。**

私たちが理解できるように、祝福を求めて共に祈りましょう。

愛する天のお父様、今朝私たちは、あなたの教会であなたの民としてへりくだり、飢え渴いて御前に出ています。

主よ、あなただけが満たすことのできるものに、私たちは飢え渴いています。

ですから、私たちの魂の飢え渴きを満たして下さい。

イエスの御名によって願い求めます。アーメン。

先週から「苦しみの目的」を2回に分けて学んでいます。

2週間にわたって2つの節を2回に分けて学ぶ理由の1つは、私たちがキリストの苦しみに与ることに関して、パウロが非常に驚くべきことを語っているからです。

皆さんも同意すると思いますが、これは明らかに、私たちが話題にしたくない、また牧師が教えたがらないトピックです。

でも、聖書を書ごと、章ごと、節ごとに教えるなら、このような節を避けることはできません。

私も苦しみに関するメッセージは飛ばしたい。

だけど、良いお知らせがあります。

皆さんが苦しさに耐え忍ばなければならない苦しみのメッセージは、これが最後だということ。

勿論、苦しみに関する御言葉が次に出て来るまでですが。

その時は、また話さなければなりませんから。

繰り返しますが、2回に分けたかった理由は、使徒パウロがこの2節で語っていることのためです。

特に、キリストの復活の力とキリストの苦しみに与ることを知ること。

これを言っているのは使徒パウロですよ。

皆さんも私と同じくらい、パウロが「キリストを知りたい」と言っていることに驚いているのでしょうか。

使徒パウロこそ、キリストを一番良く知っていた人です。

なのに、「必死で知ろうとしている」と語っている。

そして、それには近道がないということを知っていました。

パウロはキリストとキリストの復活の力を知りたかった。

でも、どうやって知るのでしょうか。

苦しみという方法によってです。

実は、同じことをローマ8章で見事に語っています。

ローマ8:16-18 (新改訳第3版)

16 私たちが神の子どもであることは、御霊ご自身が、私たちの霊とともに、あかしして下さいます。

17 もし子どもであるなら、相続人でもあります。

私たちがキリストと、栄光(と力)をともに受けるために苦難をともにしているなら、私たちは神の相続人であり、キリストとの共同相続人であります。

18 今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます。

何度も言いますが、これを言っているのはパウロですよ。

というのは、苦しみに関して、神の民に語る権利を持つ人がいるとするなら、それは使徒パウロだから。敢えて言いますが、ここにいる人は誰一人、パウロが通った全ての苦難を絶えることはできないでしょう。

Ⅱコリント 4:16-18

16a ですから、私たちは落胆しません。

痛みや困難に直面すると、何とたやすく落胆し、勇気を失い、気弱になってしまうことでしょう。

しかしパウロは「私たちは落胆しない」と語り、それが可能な理由と、落胆なくていい理由を述べようとしています。

16b たとえ私たちの外なる人は衰えても、

これは私が毎朝、鏡を見るたびに成就しています。

私たちの外見は、ある訳では「日々、朽ちていっている」

内なる人は日々新たにされています。

17 私たちの一時の軽い患難は、それとは比べものにならないほど思い永遠の栄光を、私たちにもたらすのです。

ですから、

18 私たちは見えるものではなく、見えないものに目を留めます。

見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に続くからです。

イザヤが聖霊によって書いた言葉を思い出します。

志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。その人があなたに信頼しているからです。

(イザヤ書 26:3)

たとえどんなことが起ころうとも、主に思いを向けている者を、神は全き平安のうちに守られます。

ある人の人生は崩壊しているかもしれません。結婚生活の破綻、家庭の崩壊…

けれども、そのような目に見えるものではなく、見えないものに目を留める。

なぜなら、目に見えないもの、私たちを待っている栄光は、私たちが直面している苦しみとは比較にならないほど素晴らしいから。

先週、私はこのことについて考えていました。

というより、この1年間、主は多くの部分で、この真理について示し続けて下さっています。

これは人生の教訓であり、多くのストレス、プレッシャー、困難、痛み、苦しみ、試練、その他様々なことの中で、私には非常に大きな助けとなっています。

簡単に言うと、「天国での1秒は、地上での苦しみの生涯と全く比較にならないほど価値がある。」

別の言い方で同じことを言います。

永遠というのは時空連続体から外れてしまうので、永遠を測ることはできません。

ですから厳密に言えば、時間という尺度はないのです。

が、分かり易くするために言うと、「永遠の1秒には、一生涯苦しみを経験するだけの価値がある。」

シンプルに言うなら、「私たちを待ち受けている栄光に比べたら、この地上での人生の苦しみは取るに足りない。」それだけの価値がある。

あなたが直面している困難、今朝、あなたが教会に持って来た重くのしかかっている試練は、考察し検討する意味すらないということ。

どうか、誤解しないで下さいね。

私は決して、それを軽視するつもりはありません。
ただ、この件に関して、もっとはっきりと区別したいのです。

敵は毎回、私たちが引っかけようと働きます。しかも、とても巧妙に。
敵は私たちの思いを問題に集中させ、次に、その問題によって、これから何が起こるのかを聞かせようとする。
困ったことに、私たちは主の声には耳を傾けないのに、敵の声は聞いてしまうのです。
たとえば、非常に難しく、痛くて、辛くて、全く不可能に見える状況にいる時、敵はまさにそこにいて、言って来る。

「うわっ！ ここからどうやって脱出するんだい？」

「神は、これをどんな風に益に変えるって言うんだ？」

「これは相当ひどいぞ。」

そして、私たちはそれに耳を傾け、信じ始めるようになるのです。

そこで主は反対側で、言われます。

「あなたはわたしではなく、彼の声に耳を傾けるのか？」

「わたしを信じないで、彼の方を信じるのか。」と。

サタンは私たちの思いを、この地とこの世に固執させることに躍起になっているのです。

私たちが地上の一時的な、目に見える事柄に目を留めるなら、思いと目を天に向けることはできないから。

この地で苦しむことがないなら、天の栄光を待ち焦がれることはないでしょう。

私たちが直面する困難や試練は、墮落した一時的な世界から目を逸らさせ、この世と世の事々への執着をなくさせます。

古い聖歌ですが、

「あなたの目をイエスに向け、素晴らしい御顔をはっきり仰ぎなさい。

この世に属するものは、栄と恵みの光の中に不思議に薄れていくでしょう。」

「クリスチャン信仰の逆説を理解するのは早い方が良い。」

これは私にとって、主との個人的な歩みの中で学んでいることです。

上り坂は下り坂。逆説の信仰。

主は、へりくだる者を高め、高ぶる者を低くされる。

命は死から生まれる。

復活の力は十字架の苦しみから来る。

ここにジレンマがありますよね。

問題なのは、私たちが自分自身のために生きていることです。

だから、自分の十字架を背負いたくない。自分に死にたくない。

だからこそ…どうか聞いて下さい。

だからこそ、神は苦しみを許すことも必要だと考えておられるのかもしれませんが。

自分の力ではどうにもならない状態に達し、へりくだって、自分自身に死ぬために。

イエスはこう言いました。

「あなたがわたしの弟子になりたいなら、（イエス様、私は弟子になりたいです。）

あなたがわたしに従いたいなら、（イエス様、あなたに従順したいです。）

あなたは十字架を負い、自分に死ななければならない。

そうしない限り、あなたはわたしの弟子になることも、わたしに従うこともできないからだ。」

そこで質問です。

「もし～なら」ではなく、「～する時」

困難が襲って苦しみが生じる“時”、私たちは神に目を向けるのではないですか。

物事が順調な時は、神に目を向けないでしょう。

神は何かを示したいのに、私たちがあまりにも忙し過ぎるために示すことができなかつたら、神はどうやって私たちを止め、少なくとも、私たちの歩みを遅くさせるのでしょうか。

幸いなことに、神はその方法をご存知です。そうですよ。

主が困難を許したので、私はようやく神に注意を向けました。

今は、神に注目しています。

神は、困難に伴う痛みと苦しみ以外の方法では知り得なかったことを、私に示し、教えたのです。

実際、苦悩と苦しみがないと、主を求め、主に近づくことはありません。

ヤコブが言っているように、私たちが主に近づけば、主は私たちに近づいて下さいます。

問題なのは、主は絶対に強要しないということ。

主はいつも私たちと共におられます。

わたしは決してあなたを見放さず、あなたを見捨てない。（ヘブル 13:5）

しかし！ 私たちは主を見捨ててはいませんか。

主から遠ざかっていませんか。

先週も言いましたが、今日これから読む箇所にふさわしいと思うのでもう一度言います。

私は、「神が非情で、しかも懲罰的な方だから、私に注意を払わせるために困難を許すのだ」などと想像したことはありません。

むしろ、私を本当に愛し、私に会いたいと思って下さる神を思い浮かべます。

だから、私を完全にご自分のものとするために、この人生で何かが起こることを許される。

真実に打ち砕かれ、深く悔い改めている時こそ、私たちが最も主に近づき、主が最も近づいて下さる時なのです。

主は心の打ち砕かれた者の近くにおられる。（詩篇 34:18a）

あなたがどん底だったのは、恐らくそんなに昔ではないはずですよ。

人生の暗い時期、厳しい試練の中で苦しみがひどかった時、それはまた、主ととても親密な楽しい思い出の時ではなかったですか。

コーリー・テン・ブーム（1892-1983）の言葉だったと思いますが、

「イエス以外のものがなくなるまでは、イエスだけが必要の全てであることに気付けない。」

イエス以外のものがなくなるまでは、イエスだけが必要であることを、あなたは知ることができない。

友人たちに見捨てられ、人に失望させられ、信頼を裏切られ、心がボロボロに傷つく。

けれども、主はそこにおられるのです。

もしかしたら、それが理由かもしれませぬ。

詩篇 119 篇。

旧約聖書で最も長く、もちろん詩篇でも 1 番長い 119 篇。

ところで木曜の夜に詩篇を学んでいます、主の御心ならば今週は 83 篇を学びます。

知っている人は知っている、あの詩篇です。

詩篇 78 篇は 2 番目に長い詩篇で、ある木曜の夜はそれだけに時間を費やしました。

素晴らしい詩篇から御言葉を学ぶのは本当に恵まれた時間で、詩篇 119 篇の学びが楽しみで仕方ありません。

そこに行くまで 1 年かかるかもしれませんが、必ず辿り着きますよ。

119 篇だけで 1 年費やすことになるかもしれませんがね。

119 篇 67 節でダビデが言っていることを聞いて下さい。

苦しみにあう前には 私は迷い出ていました。しかし今は あなたのみことばを守ります。(詩篇 119:67)

その後の 71 節では更にこう言っています。よく聞いて下さい。

苦しみにあったことは 私にとって幸せでした。(詩篇 119:71a)

(本当に!?) (そうですよ。なぜなら、)

それにより 私はあなたのおきてを学びました。(詩篇 119:71b)

言い換えるなら、私たちが神に近づき、神に目を向けるために、神は苦しみを許される。私たちに見せたいものがあるので、私たちをご自分だけのものにすることができるように。このようにイメージしてみてください。

「ちょっと、ここにおいで。見せたいものがあるんだ。」「はい。」

「あなたに教えたいことがあるから、わたしと一緒に来る必要があるんだよ。

あなたがわたしと一緒に来るように、わたしの方を向き、わたしに近づくようになるために、わたしに唯一できるのは、あなたに苦しみを許すことなんだ。」

だからダビデは、「苦しみにあったことは 私にとって幸せでした。」と言えたのです。

「神は苦しんでいる人を慰める。」と聞いたことがあるでしょう。

でも、これは聞いたことがありますか。「時々、神は快適に生きている人を苦しめる。」あなたが私のようなタイプなら、聞きたくないはず。

「神は快適に生きてる人を苦しめる」ですって!?

時に、余りにも満ち足り、快適すぎると、率直に言わせてもらいますが、私たちは綿菓子キリスト教で満足してしまうのです。

「JD 先生、今、本気で言いました？」言いましたよ。

綿菓子キリスト教。ただフワフワしているだけ。

主は、まるでこう言っているようです。

「知っているかい。わたしは特上のリブローズを持っているんだ。ここに。

でもあなたは、このフワフワの綿菓子キリスト教に夢中になっている。

もしあなたがその状態を続けるなら、やがて、あなたのクリスチャン生活は腐敗するよ。」

苦しみの中で、また、それを通して神が教え、示して下さいたことのゆえに、ダビデは「苦しみにあったことは幸せだった」と言えました。

それが苦しみの目的です。

もう 1 度言いますが、神を「彼らは順風満帆に暮らしている。少し教えてやらないとな!!」のような、非情な方として見ないで下さい。

違います。違うんです。

そうではなくて、「わたしが彼らのために用意しているものを、彼らが知ってさえいれば…

でも、彼らには見えない。私はこれを見せたいのに、彼らはあんなもので満足している。」

時に、いや、しばしば、神が苦しみを良しとされる理由は、もっとひどい痛みから私を救い、より大きな祝福に備えさせるためなのです。

「私たちを破壊する強烈な試練から救うために、神は苦しみを許す」とはどういうことか。

説明しますから聞いて下さい。

マタイ 14:22-32

22 それからすぐに、イエスは弟子たちを舟に乗り込ませて、自分より先に向こう岸に向かわせ、その間に群衆を解散させられた。

23 群衆を解散させてから、イエスは祈るために一人で山に登られた。

夕方になっても一人でそこにおられた。

24 舟はすでに陸から何スタディオンも離れていて、向かい風だったので波に悩まされていた。

25 夜明けが近づいたころ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに来られた。

26 イエスが湖の上を歩いておられるのを見た弟子たちは「あれは幽霊だ」と言っておびえ、恐ろしさのあまり叫んだ。

27 イエスはすぐに彼らに話しかけ、「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない」と言われた。

28 するとペテロが答えて、「主よ。あなたでしたら、私に命じて、水の上を歩いてあなたのところに行かせてください」と言った。

29 イエスは「来なさい」と言われた。

そこでペテロは舟から出て、水の上を歩いてイエスの方に行った。

30 ところが強風を見て怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。

31 イエスはすぐに手を伸ばし、彼をつかんで言われた。

「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか。」

32 そして二人が舟に乗り込みむと、風はやんだ。

33 舟の中にいた弟子たちは「まことに、あなたは神の子です」と言って、イエスを礼拝した。

イエスが、敢えて弟子たちを嵐の中に送った話。

カギとなる言葉は“すぐに”

まるで緊急であるかのように。

福音書の中で、イエスがこれほど急いでいるのを見たことはありません。

でも、この時は切迫していたようです。

なぜなら、すぐに、イエスは弟子たちを舟に乗り込ませて、自分より先に向こう岸に向かわせたからです。

イエスは弟子たちと一緒に舟に乗り込まず、逆に、祈るために一人で山に登られます。

弟子たちは気がつくやうに、非常に危険な、生死にかかわる嵐の中にいました。

よくあることですね。

ところでガリラヤ湖は、いきなり突然、嵐が襲うことがあり、それは、夜の暗い時だったと書いてあります。

弟子たちは本当に恐れて、「これでもう終わりだ」と本気で思いました。

あまりにも恐れていたのも、イエスが水の上を歩いているのを見て幽霊だと思い、恐ろしさのあまり叫んだ。

悲鳴を上げた。幽霊だと思って泣き叫んでいた。

するとイエスは、彼らが恐れているのを見て、すぐに「恐れるな！ しっかりしなさい！」

ここで興味深いことに、ペテロだけが発言しています。彼は分からなかったのです。

28 「主よ。あなたでしたら、私に命じて、水の上を歩いてあなたのところに行かせてください」

29 イエスは「来なさい」と言われた。

そして彼はやった。水の上を歩いた。

皆さんも「イエスに目を留め続けていなければならない」というメッセージを、たくさん聞いたことがあるはずですよ。

でも、ここには別のことがある。

そのために、ここで起こったことを、聖霊によって、これほど詳細に書かせる必要があると神は見なされた、と私は思います。

ペテロは舟から出てイエスの方へと歩いて行き…イエスから目を逸らして嵐を見てしまいました。

まだその時も嵐だったのですよ。

イエスはまだ嵐を静めておらず、興味深いというか補足ですが、イエスは弟子たちがまさに恐れていたものの中を歩いていました。

ところで、一緒にイスラエルに行った方は、ガリラヤ湖の地形を知っていますね。
イエスは、何が起きているかが全部見渡せる山の頂上、反対側の山頂に登って祈っていましたが、何を祈られたと思いますか。

こう聞いた方がいいかもしれません。

イエスは誰のために祈っていたのでしょうか。

私は、イエスご自身が敢えて嵐の中に送った弟子たちのことを祈っていたと思います。

中には、これで見方が変わる人がいるかもしれませんね。

私もクリスチャンになったばかりの頃、そうでしたから。

「ちょっと待って下さい。主よ、あなたが私を嵐の中に送り込んだじゃないですか！

それって、意地悪でしょう。主よ、愛はどこにあるのですか。何で私にこんなことをするのですか。」

しかし主は、敢えて私を送り込まれた嵐の中で、非常に多くのことを示し、教えて下さいました。

その一つは、あなたは神の御心のど真ん中にいながらも、試練の真ただ中にある可能性があるということ。別の言葉で言うなら、物事がとても悪いからといって、試練が非常に激しいからといって、御心から外れているわけではないということです。

あなたに起きている困難を、「これは神の御心ではない」と解釈しないで下さい。

さて、戻りましょう。

なぜイエスは弟子たちを、敢えて生死にかかわる嵐の中に送られたのか。

そして、なぜイエスは、すぐにそれを行うほど緊迫していたのか。

それらの理由は文中に詳しく書かれていますが、私は「彼らをもっと危険な嵐から救うため」であったと思っています。

どういう意味かという、このように考えてみて下さい。

彼らは、大勢の人たちに食物を与えるという素晴らしい奇跡を目撃したばかりでした。

福音書は男性 5000 人と書いていますが、妻たちと子供たちもいたので、ある人たちは、その数は約 2 万人だったと言っています。

彼らはそれを目撃したばかりです。

弟子たちも、1 人の少年の弁当から、それほど多くの人たちに食事を与えるという奇跡に加わっていました。

彼らはかごを持っていて、誰かにパンか魚を与える度にまた増える…想像できますか。

そのことについて、人々が感じ、思ったであろうことを想像できますか。

弟子たちのことを想像できますか。

私だったら、こうです。

私「さあ、食べてくれ！」 群衆「スゴイ！ これは奇跡だ！」 私「そうだろ！ どうもねっ！」

ペテロは変貌山で、「私たちがここにいるのは素晴らしいことだ」と言いましたが、その後、私だったらこうしますよ。

皆さんにバカにされないといいのですが。これで終わり。

私はイエスのところに行きます。

「イエス様、これは素晴らしいですよ。2 万人がいるんです。

最初の“パンと魚の奇跡の教会”を始めましょうよ。

私、牧師になりますから。いきなりメガチャーチですよ！」

「ダメだ！ 舟に乗りなさい！」

「イヤです！ 離れたくない！」

「舟に乗りなさい！ 今すぐに！ ここに留まったら、あなたたちに何が起こるか、わたしは知っている。

高ぶりと傲慢の霊は、必ず墮落へと、更には破滅へと導く。

わたしは、それからあなたたちを守っているのです。」

これがもっと大きな試練です。

あなたが体験している非常に大きな試練は、もっと大きく危険になり得るものから救うための、神の手段だと考えたことがありますか。

神は、もっと大きな試練から救って下さっているだけでなく、より大きな祝福のために、私たちを整えておられる。

今や、神は私たちを試したので、私たちのために用意しているものを、私たちに任せることができるのです。

ヨセフのことを思います。

神は、彼に用意されたことのために、彼を整えました。

皆さんは整えなしに、誰かを世界で最も権力ある人とはしませんよね。

でないと、あなたはその人を墮落と破滅に追いやってしまいますよ。

対応できないから。

だからこそ、神は彼を整えるために、長くて辛い17年間の、非常に危険な嵐を通したのです。

そうしてヨセフは試された後、ファラオは別として、世界で最も権力ある立場を任されました。

神は私たちにも同じことをされます。

その前に、神はまず私たちを整える必要があり、時にその準備段階が非常に辛く、困難な場合があるのです。

A・W・トーマー（1897-1963）の有名な言葉。

「神がその人を深く傷つける前に、大きく祝福することができるかどうかは疑問だ。」

繰り返しますが、神を非情な方だと思わないで下さい。

そうではありません。

神は大なる計画のために、私たちを整えておられます。

素晴らしく、豊かで、私たちの理解をはるかに超え、想像もできないほどの祝福を与えたい。

しかし、まず私たちを整えるまでは、打ち砕くまでは、そのように豊かに祝福することはできません。

骨折するとその部分が強くなるというのは興味深いですね。

神は私たちを強めておられます。

神は私たちを打ち砕くけど、強め、整えて、祝福できるようにして下さっているのです。

先週、チャールズ・スポルジョン（1834-1892）の言葉をいくつか引用しました。

彼は鬱で非常に苦しんだ人です。深刻な鬱でした。

これについて彼が言っていることを聞いて下さい。

「この鬱は、主が私の働きに、より大きな祝福を用意されている時に、いつも私を襲って来る。

光が射す前の雲は暗く、憐みが押し寄せる前には影を落とす（傷を引きずる）ものだ。」

最後にこれを言って終わりにします。

パウロがコリント教会に宛てた2通目の手紙の1章に関係することです。

Ⅱコリント1:3-7

3 私たちの主イエス・キリストの父である神、あわれみ深い父、あらゆる慰めに満ちた神がほめたたえられますように。

4 神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます。

それで私たちも、自分たちが神から受ける慰めによって、あらゆる苦しみの中にある人たちを慰めることができます。

それは、

5 私たちにキリストの苦難があふれているように、キリストによって私たちの慰めもあふれているからです。
6 私たちが苦しみにあうとすれば、それはあなたがたの慰めと救いのためです。
私たちが慰めを受けるとすれば、それもあなたがたの慰めのためです。
その慰めは、私たちが受けているのと同じ苦難に耐え抜く力を、あなたがたに与えてくれます。
7 私たちがあなたがたについて抱いている望みは揺るぎません。
なぜなら、あなたがたが私たちと苦しみをもにしているように、慰めもともにしていることを、私たちは知っているからです。

神があなたに苦しみのシーズンを許されているのは、苦しみを通っている人を慰めるために、あなたが語ることができるためではないでしょうか。
あなたは、冷え冷えとした診察室で絶望的な診断を下された時に神がそばにいて下さったことを、その人たちに伝えることができる。
ある日帰宅して、夫/妻に「もう無理。これで終わり。」と言われるのがどういうことかを知っている。
同じ体験をしたから、あなたは彼らに分かち合い、励まし、慰めることができます。
あなたは苦しみの杯を味わいましたが、主はその中で、あなたを慰めて下さった。
今度は、あなたを用いて、同じように苦しんでいる誰かを慰めようとしておられるのです。

私と妻は、子供を亡くした方々を励まし、慰めることができます。
娘のノエルが亡くなった時、神が私たちを慰め、あの非常に辛い時を乗り越えさせて下さったからです。
今、私は誰かに言うことができるし、既に長年そうしています。
私は今まで、娘や息子の死で悲嘆に暮れるたくさんのお母さんを抱きしめることができました。
英語には適切に表現できる言葉がないので、これがどれほどの祝福なのか説明できかねるのですが、本当に価値があるのです。
あれは痛ましく、苦しい出来事でした。もう二度と経験したくない。
しかし神が、あの苦しみのゆえに神がして下さったこと、今もし続けて下さっていることは、言葉では言い尽くせません。

あなたが今体験しているのは、結婚生活の困難、経済的問題、職場での難しい状況でしょうか。
神はあなたのそばにいて、慰めて下さっています。
そして、誰かを祝福し、助けるために、神はあなたを整えておられるのかもしれない。

祈りましょう。
天のお父様、心から感謝します。
主よ、今日ここにいる方か、オンラインで見ている方の中で、今本当に大変な状況にあり、苦しみの杯を飲んでいる方を、あなただけが出来る形で慰め、励まし、助け、祝福して下さい。
イエスの御名によって。
アーメン。

~~~~~

**「きょう、もし御声を聞けば、あなたがたの心をかたくなにすることはならない。」ヘブル 4:7**

メッセージ by JD Farag 牧師  
カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>  
Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii